

～第34回～

南洋群島慰霊巡拝団 報告書

平成26年9月28日～10月3日



NPO法人 南洋交流協会

ご挨拶



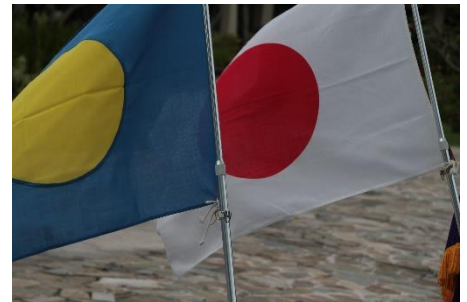
南洋交流協会

会長 滑川 裕二

私はこれまで NPO 法人の代表として毎年訪問団を出して 34 年経ちましたが、これまでパラオの南洋神社再建、ペリリュー神社、アンガウル神社、サイパン鎮霊社、天仁安神社建立につきましては、同志と共に苦難を乗り越えて、ここまでこれたことは感慨無量の極みです。祖国から遠く離れ、南洋の島々で散った若き兵士の思いを、現在の日本の若い人達にもお知らせ下されば望外の喜びです。

私達はこれからもこの活動を広めるために、更に精進し努力して参る所存です。

「皆様方の協力があってこそこの活動です。」今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



慰霊巡拝団参加者

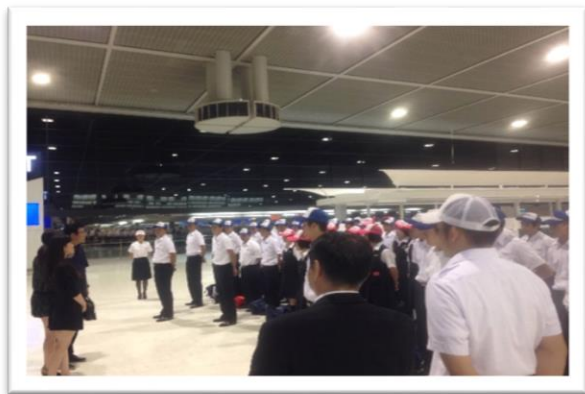
団 長	滑川 裕二
奉仕神職	勝又 荘吾 門家 茂樹 滑川 裕紀 武政 大輝
日本パラオ国際親善大使	
プリンセスグランプリ	藤元 さやか
プリンセス	松田 梨奈 結木 みいあ
プリンセルオブザスカイ	竹花 涼子 小浦 郁恵
イメージガール	平田 理奈
マジシャン	嶋田 義成
オカリナ奏者	野村 宗次郎
パラオ大使館	菱川 敏之
団 員	梅沢 重雄 佐々木 義弘 中丸 到生 岸 史郎 岸 真由美 出口 吉孝 加来 洋二 末次 典子 松浦 勝人 神 博行 鈴木 明 桑名 文雄 木村 則之 三村 操 小林 健作 下村 基夫 山本 哲史 今井 正文 田中 二郎 柳田 祥 江田 千恵 中瀬 理沙 樋口 真由美
日本航空高等学校	校長 浅川 正人 他 教員 4名 生徒 65名

計 107名

行程 5泊6日

No	日	時間	内容
1	9/28 (日)	18:00 20:40	成田空港集合。挨拶。 JL8851 便にてパラオへ向け出発
2	9/29 (月)	01:15 18:30	パラオ到着。ホテルへ（パラオロイヤルリゾート） 各自ホテルにて朝食後、自由行動。 南洋交流協会主催の夕食会。（ホテル内にて）
3	9/30 (火)	08:00 13:00 14:00 18:45	各自朝食後、集合。ペリリュー島へ向け出発。 ペリリュー神社例大祭。（宗次郎氏によるオカリナ演奏、日本航空 高校生徒による「海ゆかば」「ふるさと」奉唱。） ペリリュー政府より歓迎昼食会。茨城県常陸大宮市市長（三次 真 一郎氏）代理として木村 則幸氏より消防車、救急車の目録贈呈。 佐々木 義弘理事より芝刈り機、発電機、おもちゃ等を贈呈。 ブラック嶋田氏によるマジック、宗次郎氏によるオカリナ演奏。 南洋交流協会理事メンバーはパラオ共和国主催の独立記念式典夕 食会に参加。その他は各自で夕食。
4	10/1 (水)	09:00 14:30 16:00	南洋神社例大祭。（宗次郎氏によるオカリナ演奏、日本航空高校生 徒による「海ゆかば」「ふるさと」奉唱。） 独立記念式典参加の為マルキョクへ出発。 エンターテイメント見学。宗次郎氏のオカリナ、ブラック嶋田氏の マジック、日本航空高校の空手演武披露。 独立記念式典にてプリンセスより、大統領、他要人へ花束贈呈。
5	10/2 (木)	17:45	各自朝食後、自由行動。 パラオ共和国主催の夕食会。大統領のスピーチ、パラオ学生による ダンス、宗次郎氏のオカリナ演奏、ブラック嶋田氏のマジック披露。 日本側よりパラオへの贈り物贈呈。 パラオ共和国より日本側へ贈り物贈呈。
6	10/3 (金)	00:20 02:50 07:20	空港へ向けホテルを出発。 JL8852 便にて日本へ向け出発 成田空港着。解散。

～1日目（9月28日）～



18:00 日本航空高校訪問団出発式



パラオ到着後、VIPルームにて、キヨミ・ナカムラ氏と打ち合わせ



パラオ空港にて南洋交流協会より寄贈されたカート



パラオ空港VIPルームにて待機中



宿泊先のパラオ・ロイヤルリゾートホテルへ到着



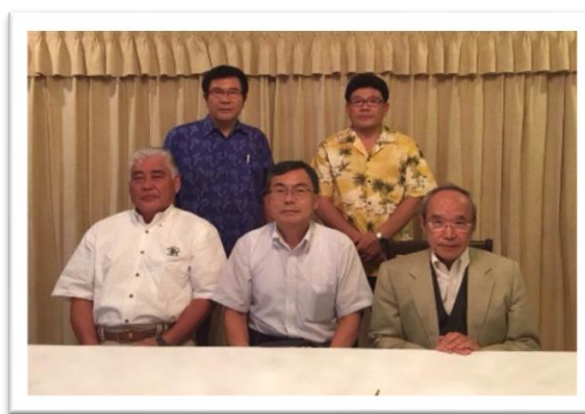
～2日目（9月29日）～



パラオロイヤルリゾート内レストランにて南洋交流協会主催の夕食会



ブラック嶋田氏によるマジックショー



理事メンバーは在パラオ共和国日本大使館公邸へ表敬訪問し、ディナーの招待をうけた。

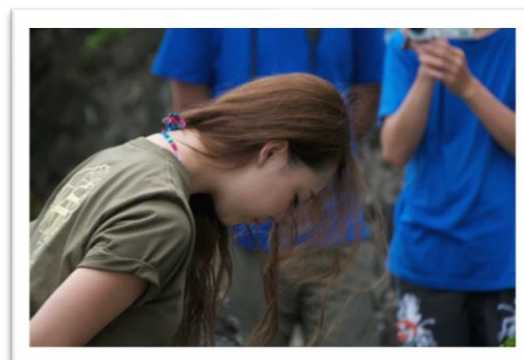
中央が在パラオ日本国大使の田尻 和宏氏

～3日目（9月30日）～

朝の国民儀礼の後、ペリリュー島へ向け出発



ペリリュー神社例大祭

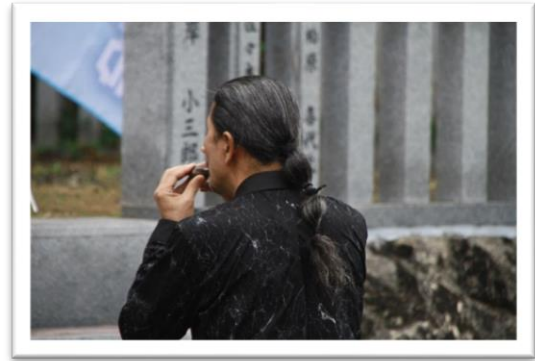


札幌 出口 吉孝氏

日本・パラオ国際親善大使プリンセス達



念佛寺 住職の山本 哲史氏による読経



宗次郎氏によるオカリナ奉唱



ペリリュウ神社例大祭後の集合写真



日本航空学園の生徒達と集合写真



祭典終了後、ペリリュー州政府主催の昼食会。
茨城県常陸大宮市長(三次 真一郎氏)の代理として木村 則幸氏より消防車、救急車の目録を贈呈し、南洋交流協会理事の佐々木 義弘氏より芝刈り機、発電機、その他とおもちゃを贈呈。



ブラック嶋田氏によるパフォーマンス



オカリナ奏者の宗次郎氏



～4日目(10月1日)～

南洋神社例大祭





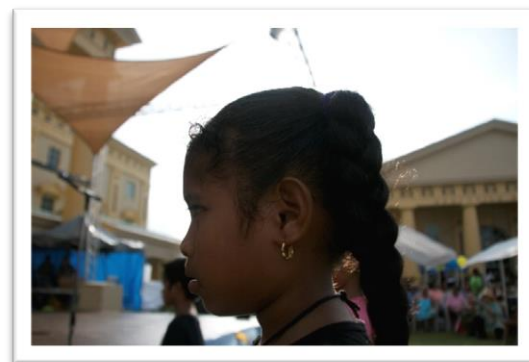
南洋神社例大祭を終えて



パラオの国会議事堂



独立記念式典の会場の様子



日本航空高校空手部による演武



ブラック嶋田氏のマジックショー



宗次郎氏のオカリナのやさしく、
美しい音色が、国会議事堂に響いた。
演奏後にある老夫婦が、宗次郎氏
に駆け寄り、日本の童謡をととも
懐かしく思い、今でも覚えている
と口ずさんでいた。





午後 6 時。セレモニーが開始。
ホラ貝の音を合図に伝統的な音楽やパラオの歴史を辿ったビデオ、様々なお祝いのメッセージが読み上げられた。
プリンセス達の花束贈呈も行われた。

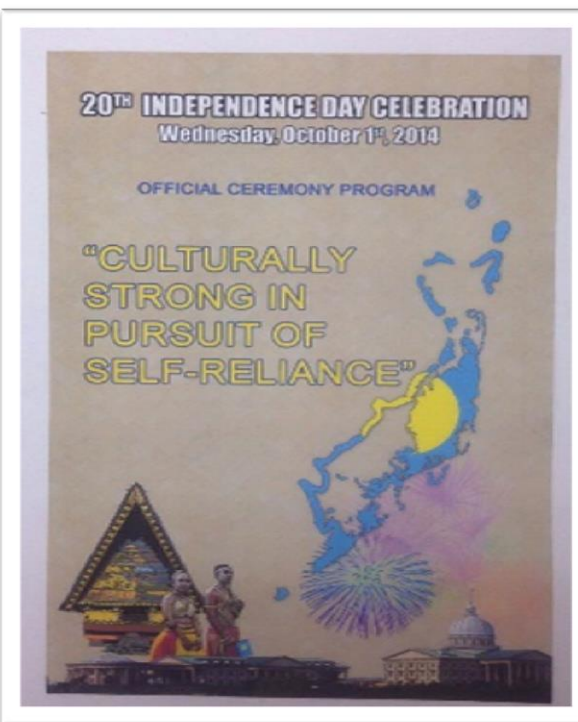
(左写真) 独立記念式典 VIP 席



VIP 席の会長



パラオ大酋長ユタカ・ギボンズ氏と



独立記念式典招待状

～5日目（10月2日）～

パラオ共和国大統領主催の夕食会がパラオ文化センターで行われました。



Tommy E. Remengesau, Jr. 大統領のスピーチ（概要）

南洋交流協会及び日本航空高等学校の皆様、パラオ共和国の独立 20 周年記念式典への御参加、誠にありがとうございます。

パラオと日本は、かねてより結びつきが大変強く、民間レベルでも多大なるご支援を賜っております。特に南洋交流協会には滑川裕二会長をはじめ、長年に渡りパラオと日本の友好と発展の為に力を頂いており、感謝にたえません。

さて、ペリリュー島の戦いでは、多くの日本人が戦死されており、未だに遺骨が多く残されたままになっております。遺骨収集についても、引き続きの対応が必要です。

また来年、天皇皇后両陛下がパラオにご訪問されるかもしれないとの事、大変嬉しく思っております。

パラオの自然は財産です。またパラオの経済そのものでもあります。この美しい自然を守り、育て、次の世代へと受け継いでいくことが我々の使命だと思っております。

皆さん、パラオ共和国の親善大使として、日本に戻られましたら、ご家族や友人の方々に、パラオの素晴らしさを紹介して下さい。

パラオはいつでも歓迎いたします。





パラオのコミュニティカレッジの皆さんによるダンス。
プリンセスや日本航空高校の生徒達も一緒に踊る。



茨城県常陸大宮市長(三次 真一郎氏)の代理として、木村則幸氏より、消防車、救急車の目録が大統領に贈呈されました。



最後に滑川会長のご挨拶



滑川会長と佐々木理事。大統領と一緒に。



プリンセスの松田さん、結木さん

参加者 所見



南洋交流協会 専務理事

梅沢 重雄 <青空の下で>

パラオ共和国の独立記念式典に参加したのは、10年振りの事です。10年前は、日本航空高校のダンス部の生徒が、大統領の前でパラオの流行歌で舞ったのが印象的でした。

今回は日本のODAで作った橋の下ではなく、国会議事堂の中庭で快晴の下始まりました。

滑川会長をはじめとする関係者が、玉砕した兵士の遺骨収集、神社修復、文化、芸術交流、産業交流の幹として日本とパラオ共和国の友好関係維持の為に努力されている姿を知り、私も南洋交流協会の活動に参加して久しいものとなりました。

今年も見目麗しい5人の日本パラオ国際親善大使と共に同志の御参加、日本航空高等学校の修学旅行団と共に、楽しくも意義ある日程となりました。旅行業務に当たられた皆様に深く感謝申し上げます。

見たか銀翼この勇姿、

日本男児が精込めて作って育てた我が愛機

空の護りは引き受けた

来るな来てみろ赤トンボ

ぶんぶん荒鷲ぶんと飛ぶぞ

と歌いながら厳しい訓練を重ねてペリリューに散った零式艦上戦闘機を毎回見るのがつらく、今回はバスを降りたところで手を合わせました。

南洋交流協会を通してこの事実を、戦争を知らない日本国民に知らせ、英霊の覚悟を無駄にしないようにと誓い、離島しました。

多勢の御参加に心から感謝申し上げます。





南洋交流協会 理事

佐々木 義弘

パラオ共和国独立 20 周年記念式典、そしてペリリュー神社と南洋神社の例大祭における戦没者慰霊儀式が、ご参加下さいました皆様のご協力によりまして盛大に執り行われました事を、深く感謝申し上げます。

今回は北海道の出口様と御友人の皆様や、九州からも特別参加者がいらっしゃいました。また、下村様の御友人の山本住職様には、ペリリュー神社にて慰霊の供養もしていただきました。

神社の前で、日本航空高等学校生徒全員での合唱「海ゆかば」を聞きながら、涙が出ました。私も兄が海軍でしたが、21 歳で戦死しましたので思い出しました。ありがとう。

宗次郎さんのオカリナの音は山の奥まで響き、眠っている若い兵士達に聞こえる気がするほど素晴らしかったです。

ブラック嶋田さんのマジックは何処に行っても大人気でした。特に子供達は大変喜んでいましたね。

今回、茨城県常陸大宮市から消防車と救急車を寄付されました。大宮市長代理の木村様より目録を贈呈されました。有難うございます。

最後になりましたが、岸化学グループの岸小三郎様から、昨年と今年の参加者全員に特注の独立 20 周年記念盾を頂きました。本当に有難う御座います。

今年是这样して皆様のご協力のお陰で、独立 20 周年南洋交流協会慰霊巡拝ができましたので厚く御礼申し上げます。





中丸 到生 <ペリリューでの思い>

九月二十八日、南溟の地パラオ共和国に着きました。

三十日、ペリリュー島へ渡り、神社での戦没者慰霊の大祭に臨みました。神事は玉串奉納など厳かに進められましたが、期せずして感動したのは日本航空高校の生徒たちの奉唱でした。「海ゆかば」「ふるさと」を合唱してくれました。なかでも「ふるさと」は今まさに戦場に散りゆかんとする兵士たちの感懐が抑制した歌詞に投影されているかのようなのでした。特に二番の

いかにいます ちちはは
つつがなしや とものがき
あめにかぜに つけても
おもいいずる ふるさと

この歌詞の部分では目頭が潤み、熱き心がこみ上げてきました。

生きて故国の土を踏みたかったに違いない父母、妻子、兄弟、友人などへどんなにか想い、出ずるものがあつたに違いありません。

今を生きる私たちはこの兵士たちの無念さをわずかでも共有しながら生きていきたいものだ、ペリリュー島が教えてくれました。





出口 吉孝 <パラオ訪問記>

パラオ訪問は十一回目である。今回、北海道より初訪問者を含めて七人がそれぞれ全員深い感銘と満足をもって無事帰国したのは何よりであった。主催者、関係者各位に感謝申し上げる。九月三十日、ペリリュウ神社例大祭にて祭文を献上する栄を賜ったが、記憶をたどり祭文を記す。

『時昭和十九年九月十五日、南西太平洋の戦略要地ペリリュウ島を攻略せんと米海兵第一師団一万六千名を中心とする四万の大軍をもって進攻、これを迎撃するは第十四師団第二歩兵連隊を基幹とする帝国陸海軍精鋭一万一千名なり。正に孤軍奮闘の中、激戦激闘、熾烈なる戦闘精神をもって七十四日間、敵に甚大なる損害を与え、長くも上聞に達し十一回の御嘉賞を賜る。昭和十九年十一月二十四日、遂に刀折れ矢尽き「さくらさくら」の決別の電文を最後に悠久の大義に殉じたり。鬼神もいかで泣かざらん。社頭に立ち過ぎし往事を忍ぶとき、涙滂沱として尽くすべき言葉もなし。嗚呼!!至誠にして尽忠、匪躬の節義に富む武士たちは、出て征きて今も還らざるか。護国の神となりし諸英霊に国家の前途の冥護を伏して乞い願い奉らん。

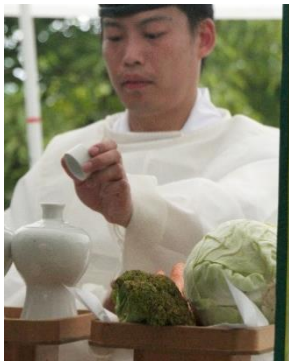
草莽の臣出口吉孝七十四歳、北海道在住七人を代表して畏み慎み奉らす。』

結びに、英霊のある未亡人の歌をよみ「果たされなかった使者の約束を果たす」決意とす。

「かくばかりみにくき国になりたれば捧げし人のただに惜しまるる」

遺族にかかる歌を詠わせる国であってはならない。





滑川 裕紀

今回、私はパラオ共和国慰霊巡拝団の一員として参加させていただき早 14 回目の参加になりました。

初めて参加させていただいた時は右も左も分からず先輩方に言われたことをやるのが精一杯だったように思います。

大学を卒業し神主として南洋神社、ペリリュウ神社の例大祭の祭典を奉仕し思うことは、先輩方が私の生まれる前から慰霊巡拝団としてパラオを訪れ祖国に帰っていない英霊の為に毎年欠かさず慰霊祭を続けている事がどれだけ大変な事かを考えますととても感慨深い気持ちになります。

私が数年前にアンガウル島を訪れその島に鎮座しているアンガウル神社に例大祭を奉仕し片づけをしていると日本人一行の方が来ました。その方はアンガウル島で戦死された方の遺族で、戦後何十年も経った今でも英霊の為に慰霊祭を行っていることに、大変感銘をうけてらっしゃいました。私はその事が今でも忘れることができません。

私たちがやっていることは、意義があることなのだと改めて実感することが出来たからです。

来年は戦後 70 年の節目に当たり天皇皇后両陛下が慰霊の為にパラオを訪問されるそうです。それを機に、パラオの事やまだ祖国に帰れない英霊が数多くいるという事を日本国民に是非とも知ってもらいたいと思います。

最後になりますが、南洋交流協会理事の皆様を始め、日本航空学園の皆様、今回参加された皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。





神 博行 <ペリリューに響く海ゆかば>

かつて日米両軍二万の死傷者を出した激戦地であるパラオ諸島ペリリュー島。平成26年9月30日ペリリュー神社において盛大な慰霊祭が行われました。

慰霊祭前、第十四師団水戸歩兵第二聯隊聯隊長中川州男大佐自決の地を訪れたが、訪れた男性の一人が急に身体が重くなり体調不良となった。その後慰霊祭参列の為ペリリュー神社へ行き、慰霊祭に参加した。

男性は神主のお祓いを受けたとたん体調が回復し、日本航空学園の生徒さんが歌う「海ゆかば」を聞くうちに身体は軽くなり無性に涙が溢れてきたという。

ペリリューの英霊に生徒さんの海ゆかばの歌声が届いていたのだろう。

英霊の御霊が心安らかにあらんことを祈る。



鈴木 明 <鎮魂ペリリュー島の旅>

旅の最大の目的は二つ。一つはペリリュー神社にて中川大佐以下一万人の日本軍守備隊への慰霊である。今回同行された日本航空高等学校学生による日本の第二の国家である「海ゆかば」と「ふるさと」の合唱は私も思わず口ずさみ涙しました。魂はせめて日本へ帰ってきてもらいたいとの思いをこめて、英霊の御霊の安寧を願い感謝の誠を捧げてきました。二つは当時米太平洋艦隊司令長官のニミッツが書き残した文章「諸国から訪れる旅人たちよ、この島を守るために日本人がいかにも勇敢な愛国心をもって戦いそして玉砕したかを伝えられよ」この文章の確認であった。日本の歴史の中で非常に重い意味合いをもつ場所。今日の日本の繁栄と平和が英霊達の貴い犠牲によって構築されていることに感謝するものです。「真理とは真の心の中にある」と説いた私の四十五年前の先生の言葉が今少し分かる気がします。

鎮魂ペリリュー島の旅でした。



桑名 文雄 <パラオ太陽と月>

南国の楽園パラオ諸島、今のパラオ諸島からは想像もつかない、七十年前狂気が狂気を呼び、一木一草残さず焼き尽くされ、全島が日本軍の墓地と化してしまったペリリュー島、想像を絶する壮絶な戦いがあったなんて…。今なお多くの遺骨が残されていると聞きます。その数万余名英霊達を三十数年の長期に渡り、遺骨収集や南洋神社はじめ多くの島々の神社再建に尽力をされ、慰霊し続けてこられた滑川会長はじめ多くの慰霊巡拝者の方々に心より感謝と敬意を申し上げたいと思います。(伯父三人サイパン、ペリリューにて戦死) また、独立記念日に合わせ毎回毎回催し事や寄贈品などされ、頭の下がる思いです。共和国との友好交流が一層深められると確信をいたしました。私も今回二度目の参加となります。少しは会長のお役にと思うのですが、力不足を一層感じてしまう始末です。今後出来る限り協力をしていきたいと思っております。お疲れ様でした。

“忘れまい今の平和があることを
祖国の平和と繁栄を願い散っていった多くの英霊達
忘れまい今の平和があることを“



パラオ共和国大使館

上級事務官 菱川 敏之

パラオ共和国独立二十周年記念に際しまして、貴協会のパラオへのご訪問に同行させて頂き、どうもありがとうございました。

パラオは貴協会より長年に渡るご支援を賜っており、今回の滞在中においても貴協会への感謝を表させて頂きました。九月三十日のパラオ共和国主催の独立記念式典では、パラオ国内の政府および経済関係者、国外の大使も含めた外交関係者とともに、貴協会の滑川会長、その他の理事の方々も同様にご出席を賜りました。滑川会長におきましては、パラオ共和国トミー・E・レメンゲサウ・Jr.大統領および大統領夫人と同席をお願いさせて頂きました。また、十月二日には、パラオ共和国主催の貴協会と日本航空学園の方々の為の夕食会を催し、パラオ共和国大統領も出席されました。

パラオ共和国と貴協会の絆が更に深まることをお祈り申し上げるとともに、常日頃の多大なるご尽力に心より感謝申し上げます。



奇術師

ブラック嶋田

パラオの訪問は今から四、五年になると思います。縁があつてか滑川団長と知り合い、是非パラオの子供たちにマジックを見せてあげて欲しいという所からご招待を受けました。その頃パラオにはあまり芸文化はなく、マジックを見た子供たちは僕の事を人間として認めず握手を求めて行くと子供たちは皆、逃げ回っていました事を思い出します。今年初めて握手するところまでたどり着きました。ステージでやるマジックより、道端でやるマジックの方が受けています。

今年の二月頃、パラオの大統領が日本に来日した際、直々にブラック嶋田に逢いたいと云う事で外務省から電話があり、貴男は何をやられる方ですかと云うものですからはっきり「タバコ」ですと云ったら「専売会社」の方ですかと云っていました（笑）。パラオの説明をしたら是非という事で目白の椿山荘で外務省関係の方々の前でおなじみの「タバコ」芸をやって今年もパラオご招待という事になりました。

南国の島パラオは僕にとって生涯忘れない国です。ありがとうございました。



柳田 祥

前回の訪問から7年。

私自身にとって2度目となるパラオ訪問は、実り多いものとなりました。7年という歳月を経ても、パラオが魅せる穏やかな景色は美しいままでした。

当時のパラオは、古びた車や建物が目に付きましたが、今は活況なのか車や建物も綺麗になっているように感じられました。

うつろいゆく時の中でも、パラオの人達と協力して行う例大祭は変わっていませんでした。34年間も一貫して続けていく事は、並大抵の労力ではない筈です。

遠くパラオの地で散華した英霊たちとパラオの人々へ感謝。

しかしペリリュー島には未だに多くの戦没者の遺骨が眠っている事実、やるせない思いを抱きます。慰霊巡拝に参加する事で貴重な体験ができ、生命の尊さと戦争の意義を改めて考えさせられました。

本当にありがとうございました。



岸 真由美 <パラオ訪問に際して>

パラオではグラスボートで海の様子を観察したり、シュノーケリングを体験し、サンゴ礁や魚を見ることが出来、言葉に出来ないくらい感動しました。また、博物館ではパラオの人々の暮らしを知る事が出来、水族館では様々な種類のサンゴや珍しい魚等を見る事が出来ました。

色々な所を見学し、体験しましたが、一番心に残ったのはペリリュー島です。ペリリュー神社での慰霊祭では、中川陸軍大佐をはじめ多くの兵士が、異国であるパラオで壮絶な戦いをして亡くなった事を思うと、自然に涙がこぼれてきました。

今、私達日本人は戦争のない日々を送っています。とても幸せな事です。だからこそ未来永劫戦争をしてはいけないと思います。

今回パラオを訪問し、当時の様子を聞き、少しですが先人達の生き様を知る事が出来ました。そしてこのパラオ訪問は、これから生きていく中で大きな財産となりました。



末次 典子

パラオが日本の統治下であった事にあまり関心がありませんでした。と云う事は知らなかったと云う訳でございまして、誠にお恥ずかしい限りでございませぬ。

慰霊巡拝団に参加させて頂き感謝申し上げます。

日本の統治時代のパラオの人々の生活が向上しつつある事が感じられる写真を拝見し、且つて台湾に旅した折、現地のガイドさんが「日本に統治されていた時代の教育やインフラがとても良く、むしろ誇らしく思い、沖縄が日本に復帰した事は羨ましく思う」と云ってらした事を思い出しました。

美しい風景と共に南洋神社、ペリリュー神社を参拝、又最終日はバベルダオブ島に行き、いずれも頗る喜ばしいものであり有難うございました。後期高齢者の身でご迷惑をおかけ致しました事、お許し下さいませ。



日本パラオ国際親善大使 プリンセス

グランプリ

藤元 さやか <パラオツアーを終えて>

この度は、親善大使 プリンセスとしてパラオツアーに参加させて頂きありがとうございます御座いました。

又、今回の親善大使プリンセス グランプリと言う大変名誉のある素晴らしい賞を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

今回、約6日間のツアーでしたが毎日が濃く勉強になることばかりで、とても充実した日々でした。

遙か彼方まで、エメラルドグリーンの透き通った海が広がっている光景を、自分の目を見たときは涙が出るほど感動しました。現地の方々の優しさにも触れ、子供達のキラキラした目と屈託のない笑顔を見て、自分の心が洗われるような気持ちになりました。

今回、このパラオ共和国独立20周年の記念すべき年に、こうして親善大使として訪問できた事、とても幸せに思います。

そして同時に、この素晴らしい国をもっともっと日本の皆様に広くお伝えしていけたらと強く感じました。

この6日間のツアーのうち、中でも私が一番印象に残ったのは、ペリリュー島にて、実際に当時のままの大砲や戦車、日本の司令塔だった建物をありのままの姿で見ることが出来た事です。

そう遠くはない昔、激戦の地となったこのペリリュー島にて沢山の命が奪われ、中には今の私と変わらない若い兵士の方も沢山の命を失ったと聞き、胸が熱くなりました。

時を経て、同じ場所に自分が立っているのだと思うと、こうして今、何不自由なく毎日を当たり前のように暮らしていける事は、本当に幸せなことだと深く感じました。

先人、先輩の方々が命をかけて築いてきて下さった深い歴史があるからこそ、今の両国の関係があるのだと、そして今の自分達があるのだと思うと、毎日生かされている事にも感謝しなければと思います。

ペリリュー島にて、実際の歴史をこうして自分の目で見て、ありのままの姿を肌で感じれた事、そして、ペリリュー神社にて例大祭へ参加出来た事は、私の人生の中でまたとない、大変貴重な経験だったと思います。ありがとうございました。

独立20周年での記念式典にて、大統領に直々にお花をプレゼント出来、とても名誉な経験をさせて頂きましたこと大変嬉しく思います。

記念式典の際も、現地の方々と直接交流でき、子供達とも一緒に遊んだり、日本では経験することの出来ない素晴らしいひと時でした。

パラオで見る打ち上げ花火は、日本で見る花火とも、また違う感動がありました。

パラオの方々も皆様食い入るように見ていらっしゃる、式典の最後を飾る素晴らしい演出だったと思います。

日本の文化がパラオにて歓迎されてる光景には、私自身も大変感動致しましたし、日本の素晴らしい文化に携わっている一員であることを誇りに思いました。

今回のツアーでは、数え切れないほどの素敵な貴重な経験をさせて頂き、沢山の勉強をさせて頂きました。

吸収したことを全て、親善大使として私達若い世代を初めとする、日本の皆様にしっかりとお伝え出来るよう、これからの活動に活かして行きたいと思えます。

今回、このような素晴らしい機会を与えて下さった皆様や、ツアーや全てを企画して下さいました南洋交流協会の皆様、そして現地でも支えて下さった周りの方々には、感謝の気持ちで一杯です。

本当にありがとうございました。

日本国代表として、パラオ共和国へ訪問させて頂き、自分の人生の中で最も素晴らしい6日間を過ごせた事は、最高の財産となる事と思えます。

感謝の気持ちを忘れず、親善大使 プリンセスとして最後までしっかりと努めていきたいと思えます。



日本パラオ国際親善大使 プリンセス

松田 梨奈

この度パラオの親善大使プリンセスとしてパラオを訪れることができたことは今までの人生で一番大きな出来事だったのではないかと思います。そして、今回経験させていただいたものすべてが私の人生の糧になりました。南洋交流会の方々を始め、連れて行ってくださったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

パラオに行って一番感じたことはパラオの人々の温かさです。どこに行ってもみなさん温かい笑顔で優しく私たちを受け入れて下さり、すぐに仲良くなることができました。

また今回私は海で怪我をしまい病院に行くことがあったのですが、その時にもパラオの方の優しさにたくさん触れました。

そしてなんととっても大自然の壮大さには言葉を失うほどでした。海にはとても幻想的な世界が広がっていて水族館でしか見たことがないような美しい魚の群れやサンゴに囲まれて泳いでいると、まるで人魚になれたような気分でした。南国の多くの海を訪れていますがこれほど美しい海は初めてでした。

また今回、ペリリュー島にも足を運び、戦争の爪痕が残っているあの光景は忘れられません。何十年経った今でも壮絶な戦いを匂わせ、私は鳥肌がとまりませんでした。ここで何万人の方が命を落とされたかと思うといたたまれない気持ちになりました。このような戦争の爪痕を残すことで私たちに警鐘を促し、もう二度と戦争をしてはいけないということを次世代の私たちに教えてくれる場所でした。

また独立記念式典に私たちプリンセスも参加させていただきました。日本人の代表としての自覚をもって望んだ式典では、多くのパラオの方々と触れ合いながら、言葉の壁や文化の違いを越え和やかなムードで時間が過ぎていきました。心に残る素晴らしい一日でした。

最終日の夕食会の時に、大統領が「これから更にパラオと日本の関係が良くなるようにお互い頑張りましょう」とおっしゃっていましたが本当に大切なことだと思います。国と国がお互いの良いところを見つめ合い、仲良くしていくということが一番大切なのだと感じました。戦争のない世の中、世界が本当の意味で一つになる世の中になることを心から願っています。そして私自身はその架け橋となるお手伝いが少しでもできればこんなに幸せなことはないと考えております。

今回は本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。これからもパラオのすばらしさを1人でも多くの方にお伝えできるよう日々努力して参ります。



日本パラオ国際親善大使 プリンセス

結木 みいあ

この度、実際にパラオに足を運ぶ機会をいただいて、本当に良い経験が出来ました。6月に親善大使プリンセスが決まってから、パラオについての旅行ガイドや論文を読んでパラオの良さを知ろうと行動しました。しかしパラオは、私が資料の情報だけで想像していたもの

より遥かに壮大で寛大な国でした。「百聞は一見に如かず」とは正にこのことでした。

パラオの海を見て、パラオが世界最後の楽園と言われるわけが分かりました。透き通る神秘的な海は、サンゴ礁によって保たれていると聞きました。しかし、シュノーケルやダイビングなどで、人が少しでも触れてしまうと簡単にサンゴが死んでしまうとも聞きました。私はシュノーケルをしながら水中写真を撮るのに夢中になっている時、サンゴに足が触れてしまったことを思い出しました。素敵なお国パラオに、もっと多くの人々が訪れてほしいと思いますが、観光客が増えれば、この海の自然を壊されていくのではないかと少し不安にも思いました。

また、私は大学で初等教育を専攻しているため、自由行動時にパラオの小学校に連れて行っていただきました。まず驚いたことは、日本と較べて小学校が開放的なことです。先生と生徒の距離が近く、みんなフランクで楽しそうに生活していました。日本の小学校には足りない良いものがあると感じました。

今回、日本パラオ国際親善大使となり、初めて日本の歴史と向き合いました。そう感じた一番の出来事は、ペリリュー島を訪問したことです。当時のまま残っていた司令塔には、激しく撃ち合ったことが生々しく記される銃口の跡が残っていました。私はこれまで、なるべく戦争映画は苦手で、唯一観たことあるのが、大好きな薬師丸ひろ子さんが出演している『戦国自衛隊』という映画くらいでした。そのため、この時初めて、いかに自分は真実を見ずに作られた世界の中で生きているのかを知りました。そして、戦争の恐ろしさをこれだけ昔の人々が残しているにも関わらず、今でも世界のどこかで戦争が続けられているということに悲しさを覚えました。

そして、この旅で一番感動した場面は、独立記念式典で花火を見た時です。花火は日本からのプレゼントだったと聞きました。パラオが長い間の植民地時代、統治時代を経て独立した記念の日を、こうして多くの国も一緒にお祝いしていること。また、国籍も言葉も違えども、みんなで同じものを見て同じように盛り上がっている、その光景に、言葉にできない感動がありました。

この度から、パラオの良さ、そして日本を新しく知る事ができました。これからもパラオの親善大使として自分に出来ることをしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。



プリンセス オブ ザ スカイ

竹花 涼子

改めまして、この度パラオ親善大使プリンセス「Princess of the sky」に選んでいただき、ありがとうございました。

パラオでの5日間は、私にとってとても濃い時間であり、素敵な経験をする事が出来ました。恥ずかしながら私はパラオについての知識が薄く、パラオの魅力や歴史、また日本との繋がりなどについてあまり知りませんでした。しかし、今回実際にパラオに行くことにより、自分自身の肌や目で見て感じ、現地の方々と交流を図ることにより、人との繋がり的重要性を学ぶことが出来ました。

これから社会人としてたくさんの出会いがあると思いますが、感謝の気持ちを忘れず、人との繋がりを大切にしたいと思えます。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて頂きましたことに心から感謝申し上げます、私のパラオ共和国訪問レポートとさせて頂きます。



プリンセス オブ ザ スカイ

小浦 郁恵

この度、パラオ親善大使としてパラオへ訪問させて頂き、実際にパラオの歴史や人々と触れ合うことができました。航空教育を通しパラオと日本について学ぶ機会がありましたが、本当にパラオの人々は温かく日本のことを大切に思ってくれていたため、より日本人としての誇りを持つことができました。

また、ミスパラオの方々、南洋交流協会の方々等、年上の方々と過ごしお話を聞く中で、今の私自身について考えることができました。多くのことを学ばせていただき本当に貴重な体験をさせて頂きました。私が感じたことをミスパラオ親善大使として多くの人々に伝えていきたいと思っております。

パラオ訪問を通し得たことを活かし、素敵な日本人女性となれますよう研鑽に励んで参りたいと思えます。

また、パラオの素晴らしい自然、人々に感動しましたのでまた足を運んでみたいと思えます。



帰国を前にホテルにて

